

(別紙様式=中学校用)

都道府県番号	1
都道府県名	北海道

学校名及び規模

学校名	風連町立風連中学校					教員数
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	
学級数	2	2	2	2	8	
児童数	50	46	53	2	151	17

【 】 *重点をおいた観点にチェックすること

研究の概要

(1) 研究主題

「本校で学ぶすべての生徒に、わかる喜び・学ぶ楽しさが感じられる学校」
 新しい学習指導要領のねらいとする基礎・基本の確実な定着を図るために、指導方法や指導体制の工夫改善を図り、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実に努める。

(2) 研究主題設定の趣旨

テーマ 「わかる喜び・学ぶ楽しさへのチャレンジ」
 ・生徒の意識調査や学力調査から実態把握を行い、生徒一人一人の学習状況に応じた指導を工夫し、主体的に学ぶ力を培う。
 仮説
 ・個に応じた教材の開発や習熟度別指導の取組など、個に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を進めることにより、確かな学力の向上を図ることができる。
 研究内容・方法
 ・14年度の実践をもとに、多面的に評価し課題を明らかにして、より具体的な方策を策定する。
 ・意識調査や評価を生かした指導の改善(指導計画・指導案)

研究の概要(選択した観点を中心に記述すること)

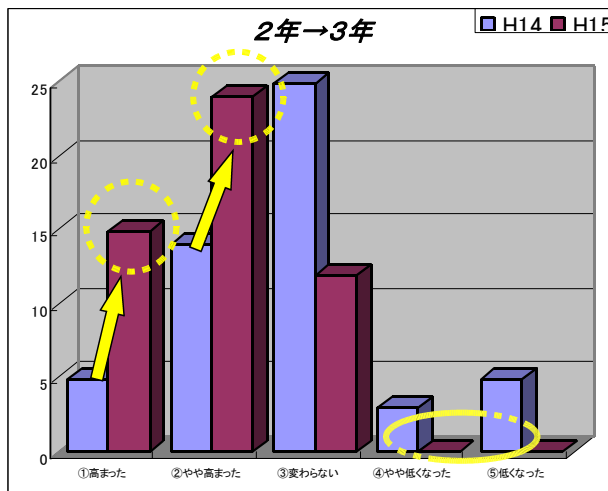
(1) 研究推進体制の工夫

平成15年度から、校務分掌の組織に、学力向上フロンティア事業推進委員会及び専門委員会を設置する。
 学力向上フロンティア事業推進委員会 - 校長・教頭・教務主任・研修・数学科担当
 専門委員会 - 教頭・教務主任・研修・数学科担当

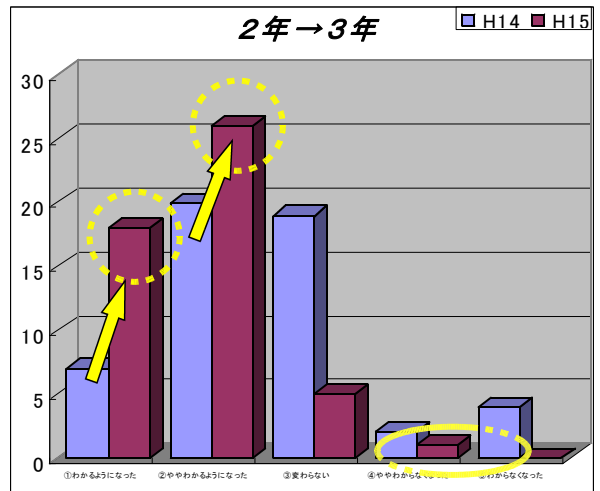
(2) 研究の実際

【学習アンケート処理データの一例(H15.12.24実施)】

Q. T.Tや少人数学習により「学習についての意欲」が高まりましたか？



Q. T.Tや少人数学習により「授業中の学習内容」がどのように変化しましたか？



前年度との比較は、同一生徒(現第3学年は第2学年時というように)を対象に行った。「理解できるようになったからやる気が高まった」という肯定的な意見が顕著に見取ることができる。また、学習内容の理解に時間を要する生徒においても学習意欲の向上が大きく数字として表れた。

今後の課題

- ・基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、指導計画段階での目標・評価の観点を見直していく必要がある。
- ・一斉指導，少人数指導における教材を開発する必要がある。
- ・指導計画のどの段階で少人数指導のどの形態が有効なのかの見直していく必要がある
- ・準備・反省・評価に関する打合せの時間を効果的に確保する必要がある。
- ・一斉授業でのサブティチャー（ST）の有効な役割を明確にする必要がある。

(4)研究成果の普及の方策

「フロンティア通信」の発行

- ・月1回、保護者に向けて取り組みの概要やその様子を伝えている。

研修会	日時	平成15年11月19日(水)
	場所	風連町立風連中学校
	テーマ	「確かな学力」と授業改善の視点
	講師	北海道教育大学旭川校 教授 相馬 一彦
	対象	町教育関係者、町内教職員、本校教職員



各研究会での研究発表

- ・名寄地区研究大会、上川管内研究大会において研究の成果と課題について発表を行った。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科） 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント（都道府県教育委員会記入）】

本校では、教師による観察はもとより、各単元テストやノート、教研式CRT等の多様な方法により生徒の実態を把握し分析することにより、具体的な指導の手だてに役立っています。また、家庭学習の大切さにも着目し、宿題の活用方法等についても研究を進めています。